

国語 第2学年 かん字のひろば1

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

既習の漢字を使い、学校で経験したことを短い文に表す。学習の記録は、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確かめた記録である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)エ	エ 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ウ	ウ 長音、拗《よう》音、促音、撥《はつ》音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)ウ	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

単元の目標

第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)エ）

語と語との続き方に注意することができる。（B(1)ウ）

既習の漢字を使い、学校で経験したことを短い文に表す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）	①「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ）	①既習の漢字を使い、学校で経験したことを短い文に表す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全2時間（書2）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 教科書の当該教材で扱う絵や場面を手元で参照し、既習漢字を使って様子を文にする。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○教科書の当該教材で扱う絵や場面を手元で参照し、既習漢字を使って様子を文にする。読み手が受け取った内容を確認、字形・読み・文中の意味を見直す。既習の漢字を使い、学校で経験したことを短い文に表す。読み手が受け取った意味を確認、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



本時の案

本時の目標：語と語との続き方に注意することができる。（B(1)ウ）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「その漢字を使うと、どんな出来事を知らせられますか」 【めあて】既習の漢字を使い、学校で経験したことを短い文に表す。 〈予想される児童の反応〉 ・漢字だけでなく文にすると使い方が分かる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「その漢字を使うと、どんな出来事を知らせられますか」 教科書の当該教材で扱う絵や場面を手元で参照し、既習漢字を使って様子を文にする。読み手が受け取った内容を確認、字形・読み・文中の意味を見直す。既習の漢字を使い、学校で経験したことを短い文に表す。 読み手が受け取った意味を確認、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・漢字だけでなく文にすると使い方が分かる。 ・同じ読みでも、この文に合う字を選びたい。	誤りを「字形」「読み」「意味・用法」に分け、本人が確かめる箇所を選ぶ。点画を比べる、音読する、文を作るなど誤りに合う方法で再確認する。 想定する難しさ：何度も書けば意味も使い方も分かると思う、全員に同じ練習を課す。 評価では、語と語との続き方に注意しているかを、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確かめた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 語と語との続き方に注意している。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確かめた記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ読みでも、この文に合う字を選びたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「その漢字を使うと、どんな出来事を知らせられますか」。中央は、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確かめた記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

何度も書けば意味も使い方も分かると思う、全員に同じ練習を課す。この難しさには、誤りを「字形」「読み」「意味・用法」に分け、本人が確かめる箇所を選ぶ。点画を比べる、音読する、文を作るなど誤りに合う方法で再確認する。評価では、語と語との続き方に注意しているかを、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確かめた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録

既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確かめた記録を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと

最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（2年）「2年上巻」69行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1916261d-d388-44ac-af42-3aa7e13b6b11/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

